

第10回 澤柳記念DEI賞授賞式

澤柳記念DEI賞は、東北大学内外に関わらず、アカデミア及び社会におけるジェンダー公正性の推進を含んだダイバーシティ・エクイティ&インクルージョンの推進を目指す取組みに多大な貢献をされた方々を顕彰し、その一助となることを目的とする制度です。9月30日の女子大生誕生110周年・文系女子大生誕生100周年記念式典で授賞式が行われました。

この度、第10回澤柳記念DEI賞には女性が少ない分野の現状把握・要因分析によるジェンダー平等を推進するための先駆的な基礎的研究を多分野且つ多彩な研究者と協働して行っている山形大学学術研究院教授河野銀子氏に授与されました。氏は量的手法と質的手法を組み合わせたミックスメソッドによる研究により、国内では実践的な改善策を提案したりなど、更には国際的にも国連大学、アメリカやイギリスの教育学会、国際会議Gender Summit、STEMの女性リーダーサミット等で発信を重ね、ジェンダー平等とDEI促進に貢献してきました。

また、澤柳記念DEI奨励賞には東北大学大学院国際文化研究科博士後期課程の張蕊氏に、そして北海道大学LGBTQ+サークル 虹の集いに授与されました。張氏は周作人の女性解放運動の体系化に向けた研究に取り組み、歴史的見地から現在の日本社会での男女共同参画やDEIを推進、実現するために大きな意義のある研究であることが評価されました。北海道大学LGBTQ+サークル 虹の集いは2016年に設立され2019年からは北海道大学公認の学生主体のサークルとして、LGBTQ+に関する例会「ついで」や映画上映会、トークイベント、講演会、親睦会、さらにはオンラインの利点を活かした例会など、質の高い啓蒙活動を精力的に定期的に繰り広げ、キャンパス外への積極的な活動は極めて注目に値し、今後も更なる活躍が期待されます。受賞者の皆様、澤柳記念DEI賞、DEI奨励賞、おめでとうございます。



女性リーダー育成 開催報告

2023年度 第1回・第2回 TUMUG Café online 科研費セミナー

女性研究者を対象とした科研費セミナーをオンラインで開催しました。第1回目は渡辺 正夫 教授 (JSPS学術システム研究センター主任研究員(農学・環境学専門調査班)、生命科学研究科)、第2回目は小泉 政利 教授 (JSPS学術システム研究センター専門研究員(人文学専門調査班)、文学研究科)を講師にお迎えし、科研費の仕組みや今年の変更点、そして採択に向けて書き方のコツなどについて説明がありました。なお、オブザーバーとして第1回目は、田中 真美 教授 (JSPS学術システム研究センター専門研究員(工学系科学専門調査班)、医工学研究科)が、第2回目は中谷 友樹 教授 (JSPS学術システム研究センター専門研究員(人文学専門調査班)、環境科学研究科)も参加され、補足説明とアドバイスをしました。第1回目は自然科学系の学内女性研究者を中心に計37名、第2回目は人文・社会科学系の学内女性研究者を中心に21名の方々にご参加いただきました。

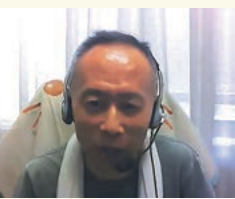
日 時 ●第1回(生物・理工系) 7月28日(金) 12:00-13:00 ●第2回(人文・社会科学系) 7月31日(月) 12:00-13:00
開催方法 オンライン(Zoom) 対 象 女性研究者 参加者数 第1回 37名、第2回 21名(関係者含む)

次世代育成 開催報告

女子学生向けプログラムセミナー「Pythonプログラミング with AI」

ChatGPTが目される昨今、8月29日、東北大学生のための無料データサイエンス・オンラインコース【Pythonプログラミング with AI】をハイブリット形式で、知の創出センターと当センター共催で開催しました。当センターのSA協力教員である橋本 佑介 特任准教授がコメンテーターを務め、西 羽美 准教授が講演をされました。【Pythonプログラミング with AI】コースは元来、西 准教授が昨年Google explore CSR Awardの支援を受け立ち上げたもので、そのGoogle explore CSR Awardは女子学生等、従来コンピュータサイエンスにあまり接点なかった学生を対象にコンピュータサイエンス研究等を知ってもらう活動を支援するために作られたプログラムです。今回、チャットAIの威力と弱点についてもお話いただきました。第一回目となるプログラミングセミナーには関係者合わせて30名の参加がありました。

講 師 西 羽美(にし はふみ)准教授(情報科学研究科 生命情報システム科学分野)



DEI推進コラム

みんなが主役をささえるガイドライン

多様なみなさんが活躍できるよう支援する組織としてDEI推進センターが始動しました。センターの活動には多様な性に関する課題も含まれます。前身となる男女共同参画推進センターが2021年度に行ったアンケートでは多様な性に関する大学のガイドラインの設定が要望されました。それを踏まえ、センターのほか、学生相談所、職員相談室、保健管理センター、キャリア支援センター、人事企画課のメンバーが集まり、ガイドラインを作成しました。学生の視点も反映するため、学生評議会や性の多様性に関する活動を行っているサークルのメンバーにも原案を示し、議論を行いました。学生からは相談窓口の資格や相談事例がわからないといった意見がありました。こうした議論をへて2023年3月に「みんなが主役-多様な性に関するガイドライン(英語版「Live as Who You Are - Guidelines for Gender and Sexual Diversity」)」を公開しました。

タイトルの「みんなが主役」はみなさんに自分ごととしてとらえて欲しいという意図が込められています。ガイドラインについて気になる点が

あればDEI推進センターに連絡してください。みなさんが主役として力を発揮できる、よりよい環境が築けるよう声をあげてもらいたいと思います。

ガイドラインでは項目ごとに担当窓口を示しており、多くの窓口や教職員が関わることがわかります。これは性の多様性について困りごとがあった場合、不安を抱えつつ多くの窓口相談をする必要があるということです。この状況は入り口としてひとつの窓口があり、それが多くの窓口と連携する体制を作ることで改善できます。DEI推進センターではこのワンストップ窓口の整備は重要な課題だと考えています。ガイドラインの策定時期は、ちょうど国会でのLGBTQ+に関する法案の審議が進み多様な性の議論について多くの報道があった時期にあたりました。先日は仙台市でもパートナーシップ制度が2024年度の開始にむけ整備が進められると報じられました。ガイドラインの項目には大学のシステムだけでは解決できず自治体との連動が必要となる項目もあります。制度の整備にあわせ、ガイドラインの「改善していきます」の課題も解決を進めていきます。

秋山 正幸

DEI推進センター副センター長
理学研究科 教授



東北大学は2023年3月に「多様な性に関するガイドライン」を策定しました。ぜひご覧ください。



イベントカレンダー

11月

8日 <ジェンダー平等×演劇モザイク・東北大DEI推進センター共催 コミュニケーション・ワークショップ>
「多様性の受容」
ダイバーシティ&インクルージョン(Diversity & Inclusion)の道
～私たちはいかにどう進んでいくのか?～
対象:東北大学生
開催時間:17時～19時
開催場所:東北大学川内キャンパス講義棟A103号室

14日 第30回
オンラインランチミーティング

12月

16日 <東北大生による朗読会+アフタートーク>
「日本女性100年史と今のジェンダー平等(仮)」
開催時間:14時～16時
開催場所:東北大学片平キャンパス サクラホール

1月

26日 ベビシッター・利用料等補助(第3回)
対象:育児を行う教職員、ボストク、博士学生等(男女)

●最新情報はDEI推進センターwebをご確認ください●

各記事の詳細および当センターの活動予定は、WebやSNSをご覧ください。



TEL 022-217-6092



東北大学ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン(DEI)推進センター Vol.1 [発行日] 2023年10月

多様性と公正性を包摂する教育・研究・就労環境の実現のために

News Letter

TOHOKU UNIVERSITY Diversity, Equity & Inclusion NEWS

東北大学DEI推進センター

Vol. 1
2023 Oct

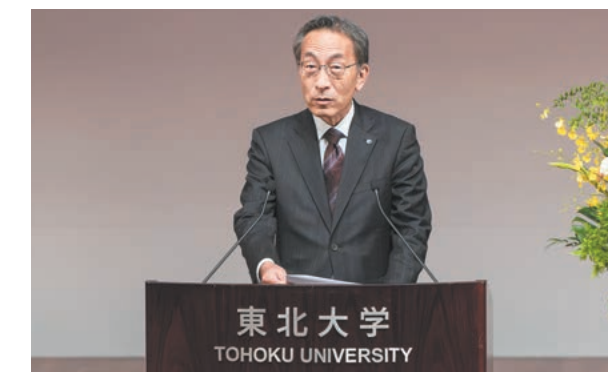
「DEI」とは、「Diversity(多様性)」「Equity & Inclusion(公平性と包括性)」からなる頭字語(アクロニム)。東北大学が「若く男女共同参画の取組が、ムーブメントとして広がっていくことを目指しています。」

Headline News

女子大生誕生110周年・文系女子大生誕生100周年記念式典と行事が開催されました。



佳子内親王殿下



大野英男総長



田中真美センター長

2023年の「東北大学116周年ホームカミングデー」が、「『門戸開放』東北大学のダイバーシティ」をメインテーマとして、9月30日東北大学川内萩ホールにて開催されました。

午前には「女子大生誕生110周年・文系女子大生誕生100周年記念式典」が行われ、佳子内親王殿下がお成りになりました。まず、大野英男総長は式辞の中で、東北大学が「門戸開放」の理念のもとで当時の文部省の圧力にも屈せず、女性の帝国大学入学への門を開いたこと、そして現在もその理念を元にDEI推進を行なっていることを述べました。

続いて佳子内親王殿下からは、本学が110年前に日本初の女子学生を受け入れたことを評価するお言葉や多様性の尊重によって誰もが安心して暮らせる社会の実現に希望をおく趣旨のお言葉をいただきました。その後、式典では当センターの田中真美センター長より「東北大学DEI推進の軌跡～皆が輝ける大学を目指して～」の講演が行われました。午前の式典と午後のトークセッション後に、佳子内親王殿下とサイエンス・アンバサダー(SA)との懇談会が行われ、参加したSAたちは、自己紹介と現在行っている研究内容、そしてSA活動について述べました。佳子内親王殿下は、一人一人の説明に熱心に耳を傾け、ご質問なさっておられました。懇談に参加したSAたちからは、「一生の思い出になる」「これからの活動に励みになった」という声が寄せられました。

当日は、SAである薬学研究科の塩崎裕美(M2)が長坂徹也副学長の総合司会の補助を務めるなど、行事全体でSAたちの大きな活躍がありました。110年前の3人の女性パイオニアたちの精神を受け継ぐSAたちの活動に、今後も目が離せません。

日 時: 9月30日(土)11:00～
開催会場: 東北大学川内萩ホール
対 象: 学内教職員、学生、一般の方



東北大学 DEI推進センター誕生

センター長挨拶「すべての構成員が輝く東北大」

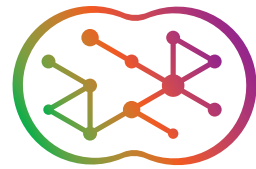
東北大学のダイバーシティの歴史は、1907年大学の創立とともに始まりました。本学は開学の理念として「門戸開放」「研究第一」「実学尊重」を掲げ、多様な人材に入学の門戸を開放し、1913年には日本で初めて女性の大学生の入学を受け入れました。また、2001年には男女共同参画委員会を設立し、2014年に設立された男女共同参画推進センターと共に男女共同参画を着実に推進してきました。

世界が大きな変革期を迎える中、現在のみならず未来の人類の幸福を目指して新たな価値の創造へ向けて挑戦し続けるために、2022年4月5日、「東北大学ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョン(DEI)推進宣言」を发出了。この宣言では、多様性、公正性、包摂性を掲げ、全ての学生・教職員がダイバーシティを尊重し、かつ、全ての学生・教職員のダイバーシティが尊重されるよう、意識啓発や環境・制度整備を促進することを表明しました。

2023年は本学で日本初の女子学生が誕生した110周年であり、また文系女子学生誕生から100周年であります。この輝かしい2023年に東北大学男女共同参画推進センターは、東北大学ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョン(DEI)推進センターへと改称しました。東北大学DEI推進センターのスローガンは「すべての構成員が輝く東北大」です。このスローガン達成のために、本センターでは、実態把握のための調査・公表を行いながら、引き続き女性リーダー育成の活動や性別を問わない育児・介護支援、無意識のバイアスの啓発など公正性の促進活動や、性の多様性に関するガイドラインの策定などDEIを推進します。学内や地域、国内外の関連組織などとも連携を図りながら、全ての学生・教職員がより一層輝けるよう、センターメンバー一丸となって、さらなるDEIの推進に努めて参ります。



DEI推進センター
センター長 田中 真美教授



東北大学 ダイバーシティ・エクイティ & インクルージョン(DEI) 推進センター



Center for Diversity, Equity & Inclusion TOHOKU UNIVERSITY



2023年7月、センター名称変更に伴い、新しいセンターロゴを公募しました。審査の結果、東京都在住のグラフィック・デザイナー藤野文古(Ayako Fujino)さんの上記作品がセンターの新ロゴと決定したことを発表します。ダイバーシティ・エクイティ・インクルージョンの3つの柱を表現した新しいロゴマークと共に、全ての構成員が活躍しやすい組織作りに励んで参ります。

▶ロゴ説明

多様性・公正性・包括性を一つの図形で表現しました。図形内の大小の「●」は一人ひとりの個性・人格を表し、色々な個を持った人々がそれぞれに自己の能力を発揮し、公正に評価され、周囲との共生・繋がりを醸成していく様子を「線」で表現しています。これらの抽象的な図形を、1つから複数個のものが生まれていく細胞分裂の形をモチーフにした楕円で包み、「異なるものを受け入れながら新しいものを作り出す」DEI推進センターの思想を投影しています。シンボルマークのメインカラーはグラデーションで表現します。**緑は自然・調和**(=ダイバーシティの実現)、**オレンジは楽しさ・明るい未来**(=エクイティの実現)、**紫は精神性の高さ・気品**(=インクルージョンの実現)を象徴しています。それらの3色のグラデーションを使用し、「多様性」や「カラフルな未来」を表現します。



2014年から男女共同参画推進センターのロゴマークとして親しまれてきたTUMUGロゴは、今年2023年のセンター名称変更に伴い、今後支援事業のロゴマークとして使用することになります。



2022年度 第6回東北大学優秀女性研究者賞「紫千代萩賞」 受賞者 コラム



西村直子

文学研究科 広域文化学専攻
インド学仏教史専攻分野 准教授



●研究内容

金属や半導体などの材料を作るプロセスでは、1,000度を越える高温でさまざまな反応が起きます。「百聞は一見に如かず」と言うように、プロセスの制御を実現するには、たとえ高温であっても何事も見てみるのが一番だと信じています。そこで私は、高温での固体-液体間の界面反応を、自作したオリジナルの光学顕微鏡を使って「その場観察」しています。ミクロンオーダーのスケールでどんな反応が起きているのかも、直接観察をすれば一目瞭然です。半導体材料であるシリコンカーバイドの結晶成長、銅製錬プロセスでのガス発生反応など、その場観察でたくさん的高温現象を明らかにしてきました。現象を知り、それを制御する方法を提案することで、材料を作るプロセスの高効率化や材料の高品質化を追求しています。

後輩達に向けたアドバイスやメッセージ

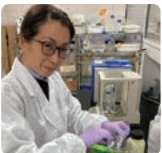
「いっぱい失敗をしたらいいと思います」：私自身、たくさん失敗してきました。学生の頃、共同研究先から20枚ほど提供して頂いた高価な単結晶の基板を、破損したこともあります。簡易密閉された包装のまま真空の保管庫に入れて帰宅したら、次の日の朝全部バリバリに割れていました。当時の指導教員は、怒りを通り越していたんでしょうね、茫然と立ち尽くしていたのを今でも鮮明に覚えています。転んでもただでは起きない性格なので、破片を集めて予定よりも回数を増やして実験することができたのですが、どう考えても大失敗でした。学生と話していると、先生という名前が付いただけで偉い人のように思われることがあるのですが、今に至るまでたくさん失敗してきました。失敗を乗り越えて次に活かして欲しいです。

大府出身。大阪大学工学部卒業、同大学院工学研究科博士前期課程修了。JFEスチール㈱での1年の勤務の後、東北大学大学院工学系研究科 マテリアル工学専攻博士後期課程修了。東京大学生産技術研究所 日本学術振興会特別研究員(PD)を経て、2015年12月より東北大学多元物質科学研究所 材料分離プロセス研究分野 助教。2023年3月 講師。2023年4月より京都大学大学院エネルギー科学研究所 准教授。工学博士。
・東北大学 プロミネントリサーチフェロー(2022年2月～2023年3月)
・National Renewable Energy Laboratory (USA) Visiting assistant professor(2019年5月～2022年3月)



多田千佳

農学研究科 准教授



●研究内容

神様と人間に上下関係があると思込んでいませんか？両者が対等な関係を結んでいる宗教もあります。古代インドのヴェーダの宗教(婆羅門教)です。「インド学」は、インドの古代・中世の文献研究を中心とする分野です。その中で、私はインド・ヨーロッパ語族に属するアーリヤ人の宗教文献群「ヴェーダ」を研究しています。アーリヤ人は黒海、カスピ海沿岸のステップ地帯から東に進み、紀元前1500年頃インド亜大陸に進入したと考えられる人々です。主な文献の編集年代は紀元前1200年頃～同5世紀頃に位置します。彼らの言語「サンスクリット語(より厳密には古インド・アーリヤ語)」は、現代のヨーロッパやイラン、中央アジアの諸言語と共通の祖先(祖語)に遡り、ヴェーダは人類史を俯瞰する際に出発点となる情報に富む文献という側面を持ちます。インドの歴史はもちろん、世界各地に通じる道は、インドの文献研究によっても開かれています。

後輩達に向けたアドバイスやメッセージ

よく眠れていますか。今日は何を食べましたか。どんな世界に生きていますか。同じ時代を生きていても、世代に応じて世界の見え方は異なると思います。私たちが経験している豊かさも貧しさも、ある日突然降って湧いたものではありません。そして、何十年も何百年もの長い時間をかけて、やっと解決が見えてくるような問題もあります。本当は、女性限定の賞など必要のない世界になってほしいと、私は思っています。それがどんな世界で、どうすれば実現するのか、考え続けています。長い道のりです。焦らず、深呼吸をしましょう。眠りましょう。食べましょう。笑いましょう。その中で苦しみながらも積み上げたものが、いつか思いもよらない景色を見せてくれることを、私は知っています。

宮城県第一女子高等学校卒業
宮城教育大学教育学部8期中学校教員養成課程(国語)卒業
東北大学大学院文学研究科博士課程前期2年の課程修了
東北大学大学院文学研究科博士課程後期3年の課程修了
2003～2006年 東北大学大学院文学研究科助手
2006～2019年 東北大学非常勤講師(2015年9月～2016年3月を除く)
2019年～現在 東北大学大学院文学研究科准教授



川西咲子

多元物質科学研究所 講師
※役職・所属は2023年3月時点のもの
2023年4月より
京都大学大学院エネルギー科学研究所准教授



●研究内容

生ごみや糞尿などの有機性廃棄物について、微生物を使って嫌気発酵し、エネルギーのメタンガスを生産し、さらに、メタンガスが出た後の液体を液体肥料として循環利用する資源循環の研究を主にやっています。この他、微生物燃料電池という有機性廃棄物から微生物を活用して直接電力を得る電池の研究もしています。微生物燃料電池の研究は、地球だけでなく、火星のような星でも使えたらいいなと夢を見ています。

後輩達に向けたアドバイスやメッセージ

ひとりひとりに個性があり、得意なことや面白いと思うことがそれぞれ異なっています。その違いに、本人が意外と気がついていないことが多いように思います。大事なことは、自分らしく、かつ、自分以外の人や生き物、世界に対して貢献することが重要だと思っています。『自分もHappy & 周りもHappy』となるを見つけて、それに捧げる！つもりでやってみるといいなと思っています。それは、いわば、「天命」とも言えると思います。ぜひ皆さんそれぞれの「天命」を見つけてください！

石川県立金沢泉丘高等学校・理数科 卒業
東北大学農学部 応用動物科学系 卒業
東北大学大学院農学研究科修士課程 畜産学専攻 修了
2002年4月～2005年3月(独)産業技術総合研究所エネルギー利用部門特別研究員
2005年4月～2008年3月(国)沖縄工業高等専門学校生物資源工学科 助手&助教
2008年4月～2009年1月(独)産業技術総合研究所バイオマス研究センター特別研究員
2009年2月から現在 東北大学大学院農学研究科 准教授



2023年度 サイエンス・アンバサダー紹介と活動報告

6/10 任命式・オリエンテーション

昨年4月の名称変更、コロナ禍を経て、更に躍進する東北大学サイエンス・アンバサダー(SA)は2023年6月10日に3年ぶりの対面での任命式、そしてオリエンテーションを終えました。サイエンス・アンバサダー(SA)は、小中高校生に対して科学(自然科学・人文科学・社会科学)の魅力を伝えつつ、身近なロールモデルとなることを通じて次世代の研究者を育成することを目的として、2006年から2008年に実施された科学技術振興調整費「社の都女性科学者ハードリング支援事業」で誕生した女子大学院生(性自認(心の性)が女性の方も含む)のグループです。毎年、学内で公募され、採用者は総長によって任命を受けます。

今年、2023年は全42名(ボランティア1名)が任命されました。任命されて以来、オープンキャンパス、仙台市長との座談会、女子大生の日記念オンライン・イベント、全国高等学校PTA宮城大会での講演、ホームカミングデー・110周年記念での佳子内親王殿下との懇談会、米国スタンフォード大学の日本人研究者との共同セミナー参加等、様々なイベント、活動に参加しています。これからもSAの意欲的活動にご注目下さい。



6/10 SA任命式

7/26水・7/27木

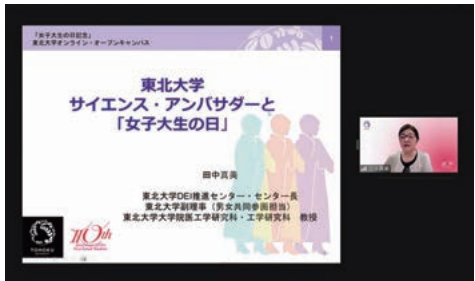
サイエンス・アンバサダーと一緒に考える「研究者ってなに？」 ～SAオープンキャンパス編～

今年度は4年ぶりの対面でのオープンキャンパスが7月26日と27日両日とも、一部と二部に分けられ、二教室で開催され、延べ人数416名(26日221名、27日195名)の方々が参加されました。さらに今年は、女子大生誕生110周年を記念し、日本初の女子大生の秘話も紹介されました。



8/10 女子大生の日記念オンライン

東北大学初代総長澤柳政太郎により打ち出された「門戸開放」という理念のもと、1913年(大正2年)8月21日、全国に先駆けて女子に東北帝国大学(現・東北大学)の門戸を開きました。そして、2020年、東北大学は、この「8月21日」を「女子大生の日」として登録しました。今年は、その「女子大生の日」を記念した、「オンライン・オープンキャンパス～自分らしく生きる力-Be yourself-」を8月10日に36名(関係者を含む)の参加者と共に開催しました。4人の現役SAより進路選択や研究生活、そして性自認における自分らしさ等についての報告があり、改めて「自分らしく生きる」ことへの意味について考える時間となりました。SAの発表後には、ZOOMのブレイクアウトルームの機能を使って、参加者の方々が希望する学部のルームに入り、所属SAと先生方との活発なグループトークが行われました。



8/24 PTA全国大会宮城大会

今年8月24日(木)、第72回全国高等学校PTA連合会大会2023宮城大会が仙台市で開催され、大会参加者の中から希望者を対象に東北大学のキャンパス・ツアーが実施されました。当センターのサイエンス・アンバサダーと史料館共同企画としてのSAキャンパス・ツアーも企画され、当日50名ほどのPTA、教員、そして関係者の方々が参加しました。SAキャンパス・ツアーは、田中真美センター長の「東北大学とDEIについて」の説明があった後、4名のサイエンス・アンバサダーによる報告が続きしました。なお、史料館ツアーでは、東北大学の入学により、日本初の女子大生となった3人の女子学生の資料や記録物、そして魯迅の階段教室などの見学が実施されました。

